



# FIFPRO ASIA/OCEANIA

AFC女子チャンピオンズリーグの  
今後に向けて  
～今までのパイロット大会から何  
を学ぶか～

*Power to the players.*

# FIFPROアジアについて

## WHO WE ARE

FIFPROアジアは、FIFPROの国際プロサッカー選手会の支部のひとつであり、アジア・オセアニア地域のプロサッカー選手の利益を代表する唯一の組織です。総勢6,000人以上の選手を代表するFIFPROアジアは、以下の12のメンバー選手会で構成されています。

ウズベキスタン選手会  
メンバー候補



日本プロサッカー選手会  
JPFA  
日本



韓国プロサッカー選手会  
KPFA  
韓国



キルギス選手会  
メンバー候補



カタール選手会  
カタール



インドサッカー選手協会  
FPAI  
インド



タイ選手会  
オブザーバー



マレーシアプロサッカー選手会  
PFAM  
マレーシア



インドネシアプロサッカー選手会  
APPI  
インドネシア



オーストラリアプロサッカー選手会  
PFA Australia  
オーストラリア



ニュージーランドプロサッカー選手会  
NZPFA  
ニュージーランド



サウジ選手会  
オブザーバー





# 背景

アジアサッカー連盟 (AFC) は、2024-25年度に、第1回AFC女子チャンピオンズリーグ (AWCL) を開催します。

この大会は、2024年8月から2025年5月までにわたって、22のAFC加盟協会から、22クラブが参加して開催されるアジア初のエリート女子クラブ大会になります。

これに先立ち、AFCは2019年から2023年まで、AFC女子クラブ選手権 (AWCC) を4回開催しています。これらは全て小規模な形で行われ、最初は4クラブで始まり、2023年から24年度には8クラブに増えました。これらの参加クラブは、予選を経ることなく、AFCからの招待制で選ばれています。

AFCは、2023-24年度のAWCCを、AWCLの「パイロット」として位置づけています。しかし、AFCがAWCLのフォーマットを考える上で、この「パイロット」の結果を、どのように反映したのかは明らかになっていません。

実際、AWCC参加選手からのアンケートや、参加クラブ関係者からのフィードバックを踏まえると、AFCが本当に、女子サッカーに関するアジア最高レベルの大会を、持続可能な形で開催できるのかについては懸念点もあります。

以上を踏まえて、このレポートでは、これまでのAWCCに関する選手のフィードバック (アンケート調査)、クラブ関係者からの聴取結果をもとに、AWCLが、真に関係者にとって、持続可能な魅力的な大会になるためにはどうすべきかについて検討したいと思います。



## 選手のアンケート調査

FIFPROは、AWCCに出場した選手を対象としたアンケートを2023年11月下旬から12月上旬にかけて実施し、88名の選手がアンケートに回答しました。これは、一度中止決定がされ、そのあと急遽開催が決定されたAWCC決勝よりも前に行われたため、決勝に関するフィードバックは含まれていません。



オーストラリア



日本



韓国



台湾



タイ



ウズベキスタン



インド



イラン



**2024-25**

AFC女子チャンピオンズリーグ



**22**

対戦クラブ



**22**

AFC加盟協会

# AWCC出場選手のアンケート結果

FIFPROは2023-24年度のAWCCに参加した8クラブ(オーストラリア、日本、韓国、台湾、タイ、ウズベキスタン、インド、イランのクラブ)の88人の選手に、アンケート調査を行いました。

まず、これら選手のうち、自らを「プロ選手」と考えているのはわずか62%にすぎず、32%が「セミプロ」、6%が「アマチュア」と回答しています。具体的な出場選手の実態としては、以下の各点があげられます。

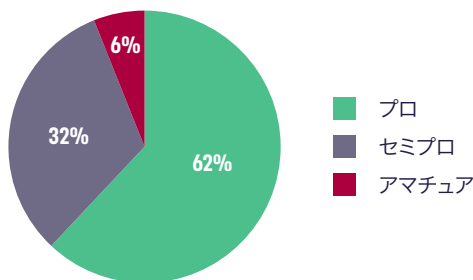
- 25%は、サッカーを主な収入源としていない
- サッカーで、年間1万ドル以上稼いでいる選手は半数以下(42%)。

- 週20時間以上をサッカーに費やしている人は32%以下
- AWCCに参加することで追加の給与やボーナスを受け取った人は30%以下

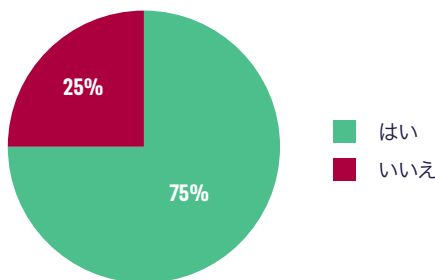
アジアでトップクラスの女子のクラブが参加した2023-24年度のAWCCですらこのような状況であることを考えると、より多くのクラブが参加する2024-25年度のAWCC(22リーグから22クラブが参加)では、「プロ選手」の割合はもっと低くなることが予想されます。



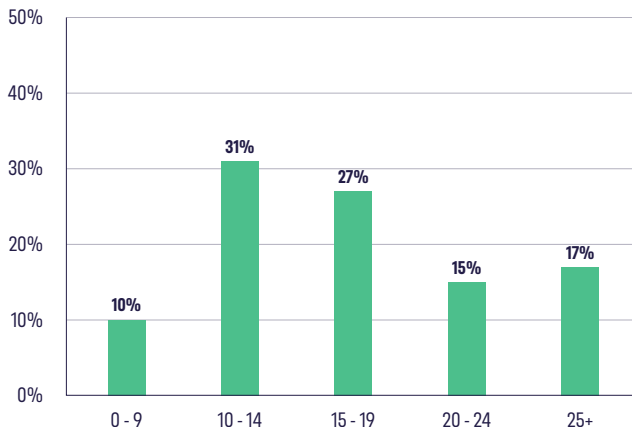
## ご自身はプロ選手ですか？



## サッカーは主な収入源ですか？



## 週に何時間サッカーに費やしていますか？



## サッカーで稼いでいる収入額は？



フルタイムのプロではない選手は、サッカーと他の仕事、学校、家庭を両立させる必要があります。この点について、AWCCへの参加が、国内のサッカー活動やその他の生活に支障をもたらさなかったと答えた選手は、わずか9%にすぎませんでした。

16%の選手は、AWCCによってサッカー以外の仕事に支障が出たと答えており、このような選手にとっては、大会参加が負担であるばかりか、本来、仕事から得られる経済的な収入をも失った可能性があります。

さらに、半数(51%)の選手が、AWCCへの参加によって、国内リーグのスケジュールに悪影響が生じたと答えており、AWCCへの参加による国内リーグの日程への影響が大きな負担になったといえます。

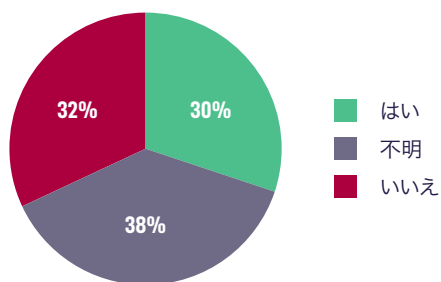
もちろん、アジアの女子選手にとって、AWCCのような大陸の大会は意義があるものであり、実際に、2023-24年度のAWCCに出場した選手の85%が、再び出場したいと答えています。

その意味では、選手たちのモチベーション、つまり最高のレベルの大会でプレーしたいという点からは、ある程度の犠牲、リスクを負うことは、選手自身も大なり小なり受け入れているともいえます。

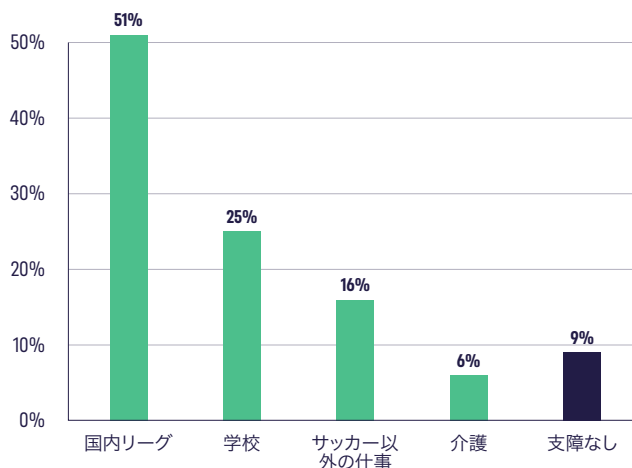
しかしながら、これが長く、持続可能な大会として続いていくためには、大会主催者であるAFCは、こうした参加選手の事情を十分に理解し、彼女たちの負担の軽減、経済的補償、試合の質を高めていく努力をする必要があるといえます。



### 2023-24年度AWCC参加で追加のボーナスはもらえましたか？



### AWCCが支障を招いたこと…



**「仕事を休まないといけなかったので、何らかの補償があるとありがたかったです!」**

— AWCC 2023-24に参加したある選手からのコメント

# 試合環境に関する選手からのアンケート結果

AWCCでプレーした選手に、試合開催地での環境についてもアンケート調査しました。

まず、宿泊施設については、アンケート回答選手のほぼ全員が「まあまあ良い」(46%)または「とても良い」(54%)と回答しています。

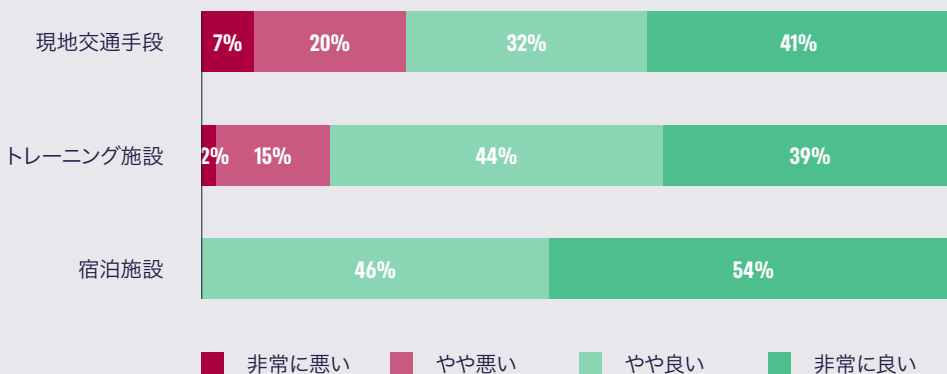
一方で、交通・移動手段については「まあまあ悪い」(20%)や「とても悪い」(7%)と回答した人が全体の4分の1に達しました。また、施設のレベルについては、17%が不満を表明しています。特にウズベキスタンで行われたグループBに参加した選手は、宿泊施設が競技場から遠すぎると指摘する選手が多い状況でした。

なお、施設や交通・移動手段に関する回答は、仁川現代製鉄レッドエンジェルス(韓国)や浦和レッドダイヤモンズ(日本)の選手に、「悪い」と回答した割合が高い反面で、FCナサフ(ウズベキスタン)、バンコクWFC(タイ)、花蓮(台湾)は「とても良い」と回答した割合が高いという結果になりました。

これは、普段から置かれている自国リーグの環境との比較で、アジア女子のトップクラスのリーグの選手と、そうではないリーグの選手で、期待値の差があったからだと推測されます。



## 施設・交通機関の水準



# AWCCの セントラル開催 方式について

2023-24年度のAWCCは、4チームずつ2つのグループに分かれ、各グループの勝者による、一発開催の決勝が行われました（AFCによる決勝中止決定をめぐる一連の経緯については後述）。グループAとBはセントラル開催型で、それぞれタイとウズベキスタンで開催されました。各グループはそれぞれ4チームの総当たりで、各チームは7日間で3試合を行いました。

この形式はAWCLでも踏襲されることになっており、予選ステージとグループステージの合計で、7カ国7グループに分かれて行われます。また、準決勝と決勝はセントラル開催型で行われ、準々決勝のみが参加クラブのホームで行われます。成績上位チームのホームで試合が行われます。

セントラル開催方式には賛否があります。ホーム試合がないため、クラブや選手は、ホームのファンの前でプレーする機会を失うことになります。この問題点は、2023-24年度のAWCCが、タイとウズベキスタンで開催された際の観客動員数が、わずか50人から500人だったという点にもあらわれています。

当然、セントラル方式のプラス面として、一つの場所で短期間に複数の試合を行うことで、試合ごとの運営コスト（飛行機代など）が削減される点が挙げられますが、ファンエンゲージメントの観点から、これがベストな方式なのかは十分に検討される必要があります。



# AWCCのスケジュール上の問題点 (グループステージ)

2023-24年度のAWCCのグループステージは、2023年11月6日(月)、9日(木)、12日(日)に行われましたが、これにはスケジュール上の問題がありました。

例えば、シドニーFCは、すでに決まっていたリーグ戦の日程とぶつかることになったため、リーグ戦の日程変更の結果、1月の国内リーグの2試合を週の半ばに変更しなければならなくなりました。その結果、24日間で6試合を戦わざるをえないことになりました。

Aリーグの女子選手の半数以上はサッカー以外の副業をしているため、シドニーFC(およびその対戦相手)にとって、週の半ばに試合を行うことは、選手が仕事を休まざるを得ない状況を生み出すことになりました。

また、AWCCは、パリ五輪の予選が行われる日程の直後に入れられることになったため、多くの代表選手が、五輪予選で、11月1日(水曜日)に至るまで3試合集中して試合を行った直後に、AWCCに合流するという厳しいスケジュールで行われることになりました。

例えば、仁川現代製鉄レッドエンジェルスに属する韓国代表選手は、中国のアモイで3試合を連続して行い、その後ウズベキスタンでも3試合を連続でプレーしなければならないことになりました。

浦和レッズでプレーしていた日本代表選手も同様のスケジュールをこなさなければならず、五輪予選のためにウズベキスタンに向かい、3試合プレーした後、AWCCのためにタイに移動するという強行スケジュールになりました。しかも、これらの選手は、ウズベキスタンで食中毒にかかり、結局、AWCCでは、プレーできない結果

## 18日間で6試合と移動をこなす 厳しい日程

10月26日	オリンピック予選
10月27日	
10月28日	
10月29日	オリンピック予選
10月30日	
10月31日	
11月1日	オリンピック予選
11月2日	リカバリ/移動
11月3日	移動
11月4日	移動
11月5日	
11月6日	AWCC   1試合目
11月7日	
11月8日	
11月9日	AWCC   2試合目
11月10日	
11月11日	
11月12日	AWCC   3試合目

になりました。過密スケジュールとベストとはいえないプレー環境が影響したものと推察されます。

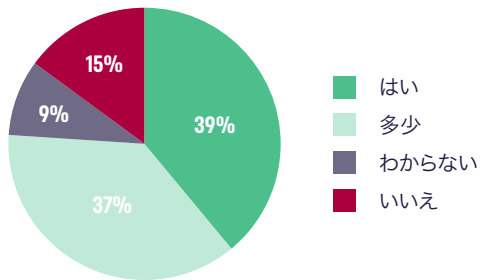
実際、選手のアンケート結果からも、AFCによる選手のコンディションへの配慮は不十分だったことがうかがわれます。大会に向けて、十分に体力的に準備が整っていたと回答した選手はわずか39%で、残りの半数以上が、不十分な準備のまま臨んでいました(「ある程度」のみの準備だったと答えた選手が37%、準備ができていないと回答した選手が15%)。

同様に、精神的にも十分準備ができていたと答えた選手は、39%にとどまり、19%の選手が、大会によって精神的負担を負うことになったと答えています。

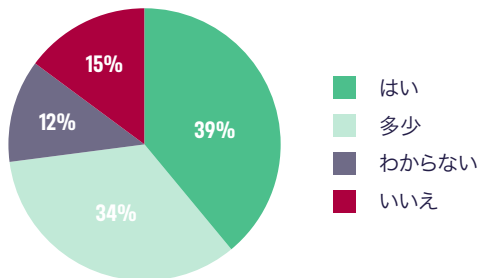




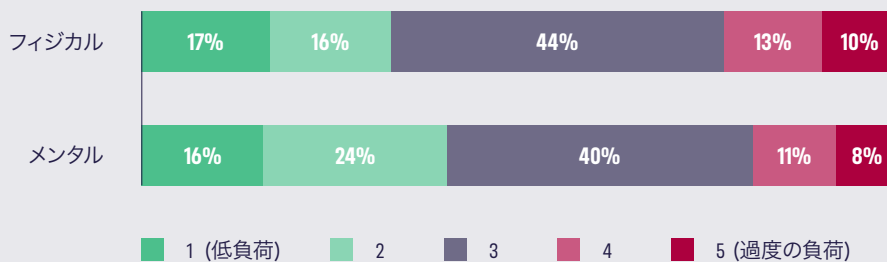
大会に向けて身体的な準備はできていましたか？



大会に向けて精神的な準備はできていましたか？



大会による負荷 (1-5スケール)



# AWCC参加に関する金銭的条件

2023-24年度のAWCCは、開催地までの交通費は、参加クラブの負担で、宿泊施設のみがAFCまたは現地開催協会が提供する形で行われました。

つまり参加クラブは、AFCから、交通費の補助、成績によるボーナス、賞金を一切受け取ることなく参加することを余儀なくされました。選手へのアンケート調査では、飛行機はエコノミークラスで移動したことも明らかになっています。

FIFPROアジアが2024年2月に公表した、男子AFCチャンピオンズリーグに関する調査では、オーストラリアのあるクラブは、チームとスタッフを日本に派遣するのに約45,000ドルかかったことが明らかとなっていますが、このような負担がある一方で、いくつかのクラブは、選手に追加のボーナスを払っています。

女子のAWCCについても、クラブは赤字で参加したにもかかわらず、選手の30%は大会に出場することによる何らかの追加の報酬を受け取ったと述べています。

この点、AFCは、2024-25 AWCLの競技規則を発表しており、ここには改善が見られます。以下のとおりの賞金(遠征補助)が支払われるものとされています。

## 2024-25 AWCL賞金

予選ステージ (チームの遠征旅費補助金)	\$50,000
グループステージ*	\$100,000
準々決勝	\$180,000
準決勝	\$300,000
準優勝**	\$800,000
優勝**	\$1,300,000

\*各クラブはグループステージで1勝するごとに2万ドルを受け取り、最大6万ドルを追加で受け取る

\*\* AFCは、準優勝賞金25,000ドル、優勝賞金5万ドルをAFCドリームアジア財団に寄付することを求めている

<https://assets.the-afc.com/downloads/tournament-regulations/AFC-Women's-Club-Championship-2023-Invitational-Tournament-Competition-Regulations.pdf>

<https://fifpro.org/media/wizhphjr/fifpro-asia-acl-report-2024.pdf>

<https://assets.the-afc.com/downloads/tournament-regulations/AFC-Women%27s-Champions-League-2024-25-Competition-Regulations.pdf>





なお、AWCLの準々決勝は、セントラル開催ではないことから、このステージでは、すべての費用がクラブの負担となります。つまり、アウェーのクラブは、遠征費と宿泊費を負担しなければなりません。

ホームクラブが負担しなければならない費用/負担は以下の通りです：

- ・ **アウェーチームのすべての現地移動手段と連絡担当者**
- ・ **AFC代表団のための5つ星の宿泊施設、車、国際的なビュッフェスタイルの食事、ランドリー、SIMカード**
- ・ **クリーンスタジアムの提供(広告やブランド名のないもの)**

前述した、男子ACLの調査レポートでも言及しましたが、メルボルン・シティFCによれば、「クリーンスタジアム」のためのコストは、試合ごとに5万ドルと見積もられています。

ホームクラブに課せられるこれらの規制は、男子のAFCチャンピオンズリーグエリートと同じものとなっています。しかしながら、女子サッカーの現状、特にリソースが限られているクラブに対して、この規制を課すことが妥当といえるかについては疑問があります。

前述のように、例えば、選手の大多数がサッカーで年間1万ドル以下の収入しか得ていないにもかかわらず、AFCの代表団や試合関係者に対して5つ星の宿泊施設と全額負担の特典が与えられるべきだというのは、およそ現実的ではありません。

さらに、AFCの競技規則は、幅広い懲罰的権限をAFCに与えています。例えば、選手が試合前の記者会見に出席しない場合、少なくとも2,500ドルの罰金が科されることとなります。既に見たように、AWCC参加選手のアンケート調査では、多くの参加選手がサッカー以外の仕事を持っており、この罰金額は、明らかにそうした収入の実態と釣り合わないといえます。単純に男子の規定を、女子にあてはめることが妥当でないことの一例といえます。

# 決勝開催をめぐる騒動

AFCが2023-24年度のAWCCの発表を行った際、2つのグループの勝者が「グランドフィナーレ」で対戦し、総合チャンピオンを決定すると発表しました。規則には「AFCは、参加クラブに対して決勝やノックアウトステージを導入する権利を持つ」と書かれていました。

仁川現代製鉄レッドエンジェルスと浦和レッドダイヤモンズがそれぞれのグループで勝利しましたが、2024年3月にAFCは決勝を開催しないことを一方的に決めました。浦和と日本のWEリーグは、この決定とその通知方法に対して、即座に不満を表明し、浦和レッズはそのことを、自クラブのホームページでも発表しました。

その後、WEリーグや日本サッカー協会がAFCと会談し、決定に異議を唱え、解決策を提案しました。最終的には浦和が埼玉のホームスタジアムで試合を開催することで合意し、浦和が2対1で勝利しました。試合には5,271人のファン・サポーターが集まりました。

しかしながら、現場にいたFIFPROのスタッフによると、AFCからは幹部が一切来場していなかった他、スポンサー関係者も不在で、試合のプロモーションも明らかに不足していました。また、当然、優勝賞金も用意されていませんでした。

これらを総合すると、AFCは、選手やクラブがかけたコストにもかかわらず、それを尊重せず、非常に軽い姿勢で臨んでいたことがうかがわれます。クラブや選手が、多大なコスト、労力をかけて決勝に到達したにもかかわらず、一方的に決勝の開催を中止したことは、極めて、不合理で透明性に欠けた決定であったといえます。

AFCがステークホルダーの利益を重視し、それに真摯に向き合う姿勢を持たない限り、AFCの主催の大会が成功することは難しいといえます。

<https://www.the-afc.com/en/club/afc-womens-club-championship/news/draw-sets-stage-for-thrilling-action.html>

<https://assets.the-afc.com/downloads/tournament-regulations/AFC-Women's-Club-Championship-2023-Invitational-Tournament-Competition-Regulations.pdf>

[https://www.urawa-reds.co.jp/redsladies/ladies\\_news/afc-womens-club-championship-2023-invitational-tournament-決勝について/](https://www.urawa-reds.co.jp/redsladies/ladies_news/afc-womens-club-championship-2023-invitational-tournament-決勝について/)

<https://weleague.jp/news/1306/>





# 今後に向けて大切なこと



## ステークホルダーを巻き込んだ透明な意思決定

前述したAWCCのスケジュールの課題や決勝開催をめぐる混乱は、AFC、クラブ、選手間のコミュニケーションを改善することで防ぐことができたはずのものです。つまり、意思決定において、ステークホルダーとの適切な対話のもと、トップダウンの一方的な決定ではなく、パートナー型の意思決定を行うことが重要です。これにより、ステークホルダーが納得する形で、協力的に大会の価値を向上させることができます。

なお、選手のアンケート調査では、AWCCに参加した選手のうち、4人に3人(81%)が、AFCの意思決定において、もっと選手の意見が尊重されるべきだと感じています。それには、スケジュールや金銭的条件が含まれます。

AFCが、より多くのことを、選手やクラブを含むステークホルダーとの適切な対話のもとに決定すれば、例えば、男子の大会のルールをそのまま女子の大会に適用することが、実態に合わないということも分かるはずですし、選手たちの知識と経験を活かすことで、すべての関係者にとってより良い結果が得られるでしょう。

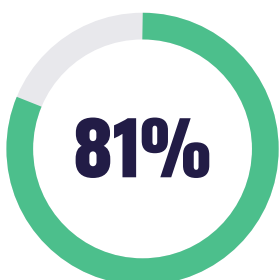


## 最低基準の策定

AWCL(アジア女子チャンピオンズリーグ)を、持続可能な大会にしていくためには、選手の環境面などについて最低条件を定め、一定以上のレベルの環境が保障されることを確保する必要があります。それがアジア地域の女子サッカーのレベルを向上させ、プロフェッショナリズムを向上させていくことに資することになります。

現在のAWCLの競技規則では、選手の環境面に対する最低限の条件についての規定がほぼありません。他方で、AFCの代表団には5つ星の宿泊施設と、国際的なスタンダードのビュッフェスタイルの食事を提供することを求めています。選手の宿泊施設や移動、食事、施設についての基準を設けていないにもかかわらず、AFC関係者のみにハイスタンダードを要求することは、明らかに優先順位を誤っているものといえます。

AFCは、参加クラブに対して、2027-28シーズンまでにフルタイムの専任スタッフを配置し、女子クラブライセンスの要件に関する文書化された計画を整備するよう求めています。この点、UEFAの「女子代表チーム向け最低条件基準フレームワーク(2023年)」は、代表チームに関するものではありませんが、AFCにとっても参考になるものと思われます。UEFAは、加盟協会に対して代表チームの環境面等についての最低基準を示し、それを満たす協会に対して資金提供をするなどのサポートを行っています。ここにいう最低基準には、スタッフ、移動、宿泊、用具、施設、医療体制、プロモーション、選手の福利厚生、財政の透明性、ガバナンスなど、多岐にわたる項目が網羅されています。



AWCCに参加した選手の多くは、AFCが意思決定を行うにあたって、もっと選手の意見を聞くべきだと述べています。



## 認知度の向上

2023-24年度のAWCCグループステージの試合は観客が少ない中で行われました。ある選手は、この大会は国際大会というよりも、大規模なトレーニングみたいなものと感じたとFIFPROのスタッフに話していました。

セントラル開催方式は、たしかにコストを抑えられるメリットもありますが、この方式を採用する場合、AFCはホスト国でより多くのプロモーションを行い、観客増加への努力を行う必要があります。

女子サッカーは商業的に急速に成長しています。今こそ、関係者が、その商業的ポテンシャルを最大限に生かすために、十分なリソースを投入して大会の価値を向上させるべきです。





FIFPRO  
ASIA/OCEANIA

未来  
リスペクト  
パートナーシップ  
プロフェッショナリズム  
健全なガバナンスとフェアプレー

*Power to the players.*

